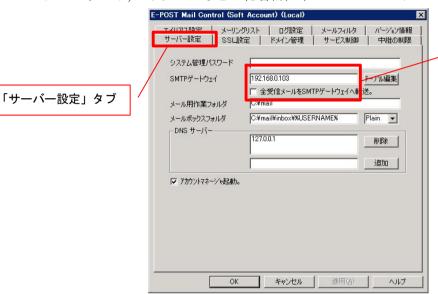


技術資料:ゲートウェイ位置に設置する SMTP サーバで 特定アカウントのみ外部送信をさせない方法について

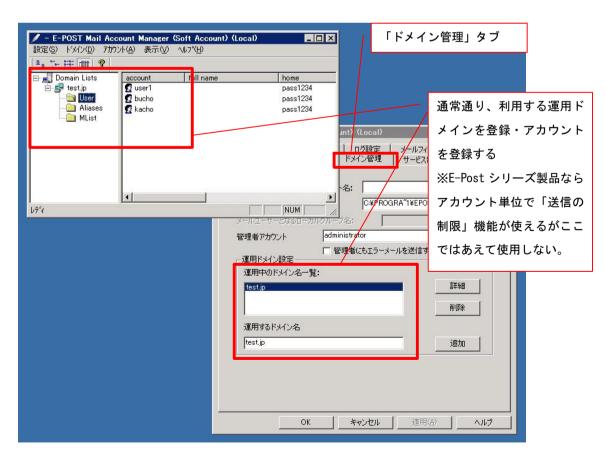
前段のゲートウェイ位置に設置する SMTP サーバで、通常アカウントは無条件にリレーする一方、特定アカウントのみ外部への送信をさせない設定を行うには、次のように行います。

[1] 後段位置に立てる通常設定の E-Post Mail Server

(ライセンスはアカウント、エイリアスなどの総合計)(マシンの IP アドレス例…192.168.0.102)



フォワードする SMTP ゲート ウェイ(前段位置に立てる E-Post SMTP Server 50user 版)を指定する。 チェックボックスはオフの まま。



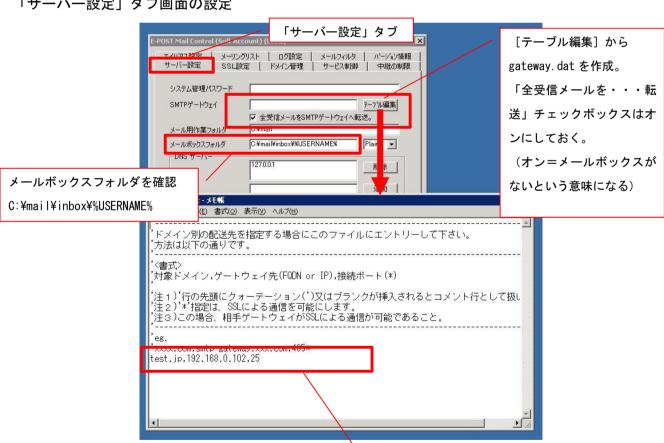


[2] 前段のゲートウェイ位置に設置する E-Post SMTP Server

設定作業の事前に各サービスを止めておき、設定が完了したらサービスを再開させます。 (※ライセンス数は 50user 版で設定可) (マシンの IP アドレス例…192.168.0.103)



「サーバー設定」タブ画面の設定



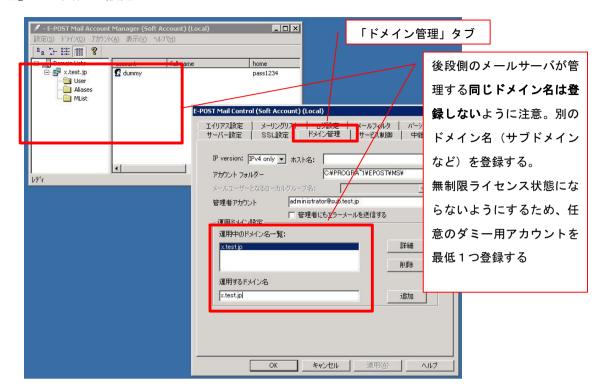
Gateway. dat の書式

[運用ドメイン], [振り分けるメールサーバの IP アドレス],[ポート番号]

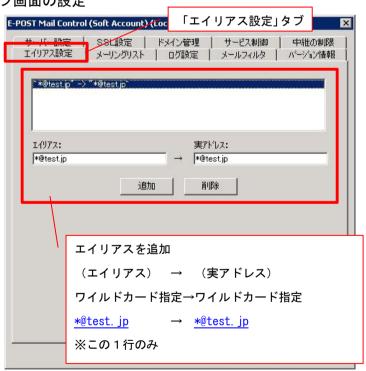
※複数の MTA があるときは複数行指定も可。



「ドメイン管理」タブ画面の設定



「エイリアス設定」タブ画面の設定

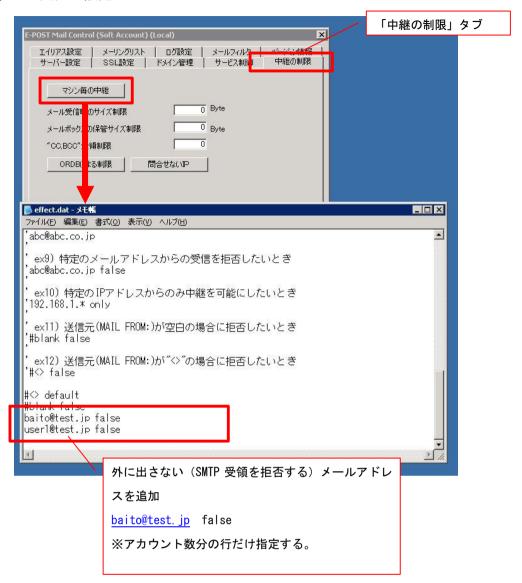


ユーザーを特定しないで無条件に通す SMTP ゲートウェイのときは、ライセンス数におさめるために、後段側メールサーバで管理しているドメイン名と異なるドメインを作り、任意のダミー用アカウントを登録します。アカウントを登録しないで、「エイリアス設定」でワイルドカード指定したエイリアスと実アドレスを関連づけると、無制限ライセンスが必要になるからです。

なお、ここではライセンス数 50user 版で設定することを前提にして、設定内容を記してますが、外部からスパマーが詐称して送った不達メールのエラー、つまりバウンスメールをそのままメールサーバに通すなど、セキュリティ面では確実に下がります。



「中継の制限」タブ画面の設定



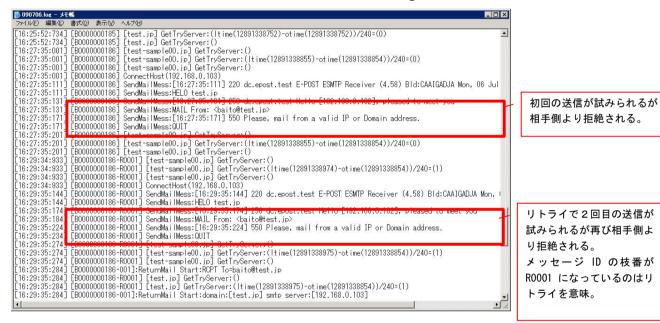


実際に、SMTP ゲートウェイ側で外に出さない設定を行ったメールアドレスから、外部宛にメールを出してみて、止められるかどうか確認します。

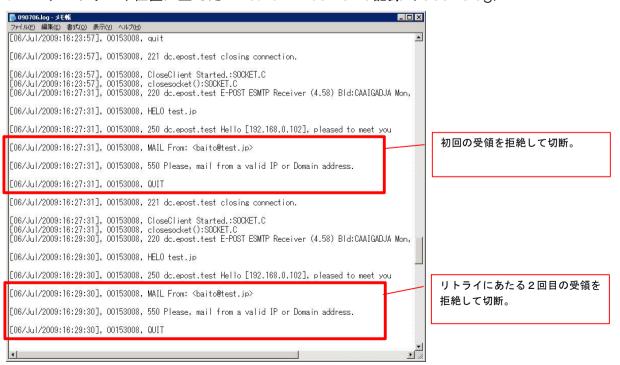
現象だけでなく、後段側の Mail Server の記録(senderlog)と、SMTP ゲートウェイ位置に立てた SMTP Server の記録(receivelog)を確認します。

後段側のメールサーバとして E-Post Mail Server を使った場合、フォワード先の相手側から「拒否」されたときは、リトライ1回だけ行うデフォルト設定になっています。つまり、最低でも2回は送信が試みられるということになります。

後段側メールサーバの E-Post Mail Server の記録 (senderlog)



SMTP ゲートウェイ位置に立てた E-Post SMTP Server の記録 (receivelog)





外に出さないように設定されたメールアドレス(baito@test.jp)が受け取ったエラーメールのデータ

